



® 平成 29 年 1 月 19 日 (木)

No. 14365 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (20) … (1)

☆特許庁人事異動…………… (10)

☆ [随筆] EUの官僚制…………… (12)

地域における観光と知的財産の関連性 (20)

東京理科大学専門職大学院(MIP)

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

17. 愛知県瀬戸市 (商標権)

今回は『瀬戸物 (せともの)』という日本語の語源となっている陶磁器の産地の取り組みを考える。この地域は佐賀県有田町と関係が深い¹。

江戸時代、尾張藩は大きな危機感を持っていた。尾張藩の熱田奉行・津金胤臣が、加藤吉左衛門・民吉の親子に朱琰 (しゅえん) が書いた『陶

説』を使って磁器に関する講義を行った。講義に先立ち、奉行は「伝え聞くに、我が国に磁器が創製されたのは、肥前有田においてである。元和元年 (1616) 李参平なる朝鮮の陶工が、有田の泉山に良質な陶石を発見し、天狗谷にて磁器物を作ったそうである。これが有田焼繁盛のもととなった。爾来百八十五余年の間、この瀬戸の窯屋は何をしていたのか。…」と叱責したという²。

知的財産の内外権利化と権利行使

プライムワークス国際特許事務所

PRIMEWORKS IP Attorneys

【情報・電子】

弁理士 *森下 賢樹
パートナ
弁理士 *村田 雄祐
パートナ
弁理士 青木 武司
パートナ
弁理士 *真家 大樹
弁理士 菅野 茂
弁理士 山本 泰
弁理士 高田 寛人

弁理士 村上 雄一
弁理士 小澤 勝二
弁理士 吉川 太郎

【化学・材料・バイオ】

弁理士 小澤 一郎
弁理士 田中 康夫
弁理士 吉澤 大輔
弁理士 大西 啓介
弁理士 *野田 裕子

【機械・制御】

弁理士 *三木 友由
パートナ
弁理士 三木 輝観
弁理士 富所 俊介
弁理士 月成 浩久
弁理士 吉田 洋二
弁理士 岩井 中田
弁理士 小池 孝幸

【通信】
弁理士 *宗田 悟志

【商標】

弁理士 長谷川 綱樹
弁理士 *木村 純平

【法務】

弁護士(顧問) 横井 康真
中国 弁理士 張 嵩
米国 特許 弁理士 サラーム
弁理士 クレア ツオッ
弁理士 (顧問) ジェームズ ジャッ
米国 特許 弁理士

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-11-12 グリュック代官山
TEL 03-3461-3687 FAX 03-3461-3688 URL: <http://www.primeworks-ip.com/>

*付記弁理士 (侵害訴訟代理権付記)

『瀬戸物』の歴史と定義とは何か。これらは観光と関連しているのかを検討する。

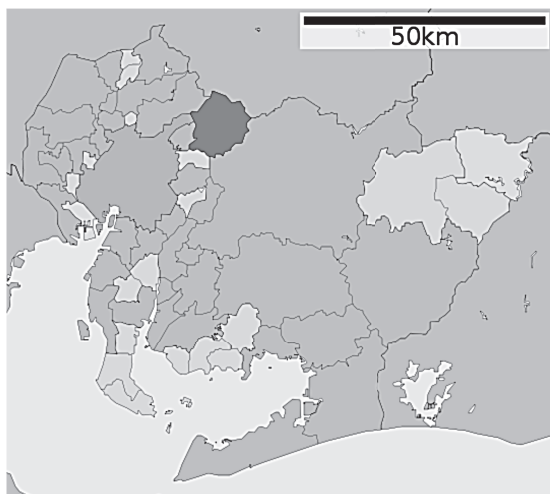
(1) 愛知県瀬戸市³

瀬戸市は、濃尾平野の東、尾張丘陵の一角にあって、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約20kmに位置している(図1)。周囲を標高100~300mの小高い山々に囲まれており、気候は温暖である。矢田川の支流瀬戸川のなす渓谷の極まる所に位し、名古屋都心より北東へ約18km、名鉄瀬戸線の終点(尾張瀬戸駅)に当たる。名鉄瀬戸線利用で名古屋市中心部の栄まで約30分である。

丘陵地帯には瀬戸層群と呼ばれる新第三紀鮮新世の地層がある。この地層は、陶磁器の原料となる良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に含んでいる。北部や東部の山間地帯には、松などの樹林が広がり、この恵まれた自然が高温で長時間焼成することが必要な窯業のエネルギー源が得られた。これらの天然の資源の存在が瀬戸焼の発展に基盤となった。

1878(明治11)年に「郡区町村編成法」、1889(明治22)年に「町村制」が公布されて「瀬戸村」となり、1892(明治25)年には「瀬戸町」となった。1925(大正14)年に「赤津村」と「旭村の一部(今村・美濃之池村)」を合併し、1929(昭和4)年(1929)10月1日に「瀬戸市」となった。せとものとの関係が深い歴史である(表1)。

図1：瀬戸市



瀬戸市は、岡崎市や豊田市、春日井市へのアクセスも良く、工業団地や住宅地の開発が進んでいる。また、アクセスの良さからトヨタ関連の従業員も瀬戸市に転入し人口は増加傾向となっている。また市内北部では北みずの坂・みずの坂の新興住宅地として開発が進んでいる。その後も市町村合併が続き、現在は面積111.40km²、人口13万人を超える市に成長している。

表1：瀬戸市の歴史

1888(明治21)年	市町村制施行により瀬戸村誕生
1892(明治25)年	町制施行
1895(明治28)年	瀬戸陶器学校(現在の瀬戸窯業高等学校)が開校
1910(明治43)年 11月17日	皇太子(のちの大正天皇)が瀬戸陶器学校(現愛知県立瀬戸窯業高等学校)に行啓
1929(昭和4)年 10月1日	市制施行により瀬戸市となる
1932(昭和7)年	せともの祭が初めて開催される
1936(昭和11)年	公立陶生病院が開院
1978(昭和53)年	愛知県陶磁資料館が開館
1982(昭和57)年	瀬戸市文化センター完成
1999(平成11)年 5月28日	新世紀工芸館が開館
2005(平成17)年	パルティセと、瀬戸蔵、瀬戸蔵ミュージアム完成
2005(平成17)年 3月~9月	愛・地球博開催。瀬戸会場が置かれる
2009(平成21)年	瀬戸万博記念公園 愛・パーク開園
2012(平成24)年	陶祖800年祭が平成26年まで開催
2014(平成26)年	名古屋市と瀬戸市に跨る「志段味古墳群」が国の史跡に追加

(2) 産業

瀬戸市の主力産業は窯業だった。近年では低迷が続き、関連工場数は、最盛期の半程度まで減少している。窯業関連工場は規模が大きくまとまった敷地を使用していたこともあり、跡地にはマンションが建設される事が多い。また、鉱山関連産業は輸入物の粘土・珪砂等に圧されて、低迷している。